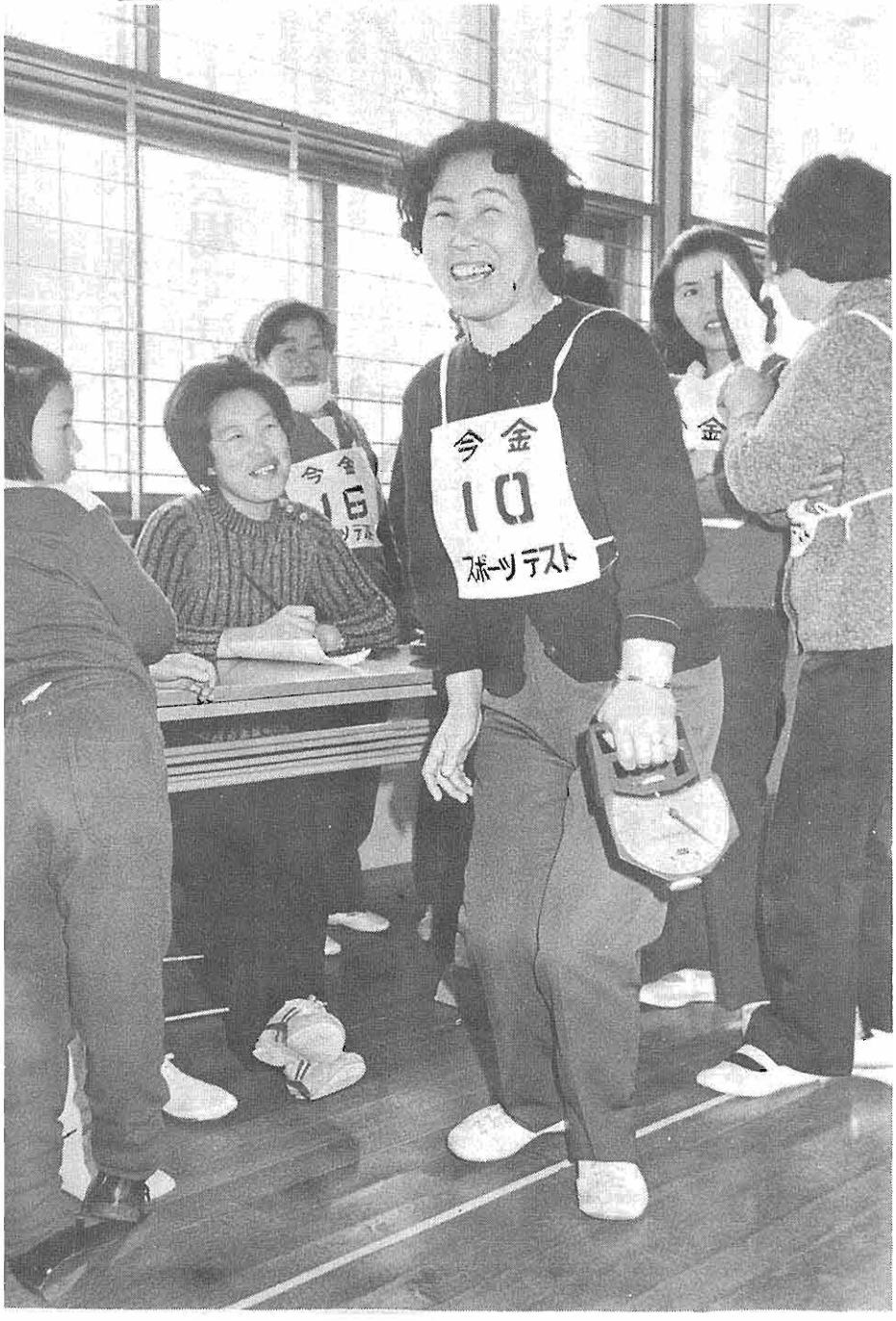
広報
いまかね

健康で勤労にはげむ明るい町にいたしましょう。（町民憲章より）

全道コンクール一般写真の部で入選



春は目の前です

みんなでスポーツに親しもう

農閑期を利用して体力づくりをーと、今金連合婦人会では三月五日青少年会館でスポーツ大会を開きました。

各婦人会から約七十人が参加、ビーチボールを利用したバレーやボウリングゲーム、フォークダンスなどをみんなで楽しみ、午後からはスポーツテスト。（写真）

日ごろ家庭にとじこもりがちな主婦も、この日ばかりは大はしゃぎでした。

春は目の前です。あなたの家庭でもスポーツに親しみ、明るく健康で楽しい生活にしてはいかがですか。

'72年
3月号
No. 165

町民のみなさんのナマの声を広く町政に反映ーこの町政の土台を通し住みよい町づくりをと、ことしも一月三十一日の美利河部落を皮切りに、十二地区で町政懇談会が開かれました。

新年度予算編成時期を控え町民の関心も深く、一会場平均三十人多いところで五十三人もの参加者があり、全部で三百三十八人とどこの会場も熱心な人たちでいっぱい。切実な意見や要望が出されました。

過疎対策、観光開発など
十二会場で活発な意見、要望

政会談
町懇



真剣な表情で話し合い（花石）

各地区の懇談会には、町長をはじめ、助役、各課長が出席。まず町長が町政全般にわたる現況報告懇案事項など説明しました。

このあと地区の代表が司会にあたり、活発な意見や要望が出されそれに対して町関係者がそれぞれの対策、将来の見通しについて直接答えました。

この中のおもな問題と回答は次のとおりです。

◇観光開発の見通しは（種川、鈴金ほか）

日進高原、美利河温泉一帯など恵まれた素朴な環境を最大限に生かし、これに合わせ観光農業、都市公園など幅広く考えています。

また、狩場、茂津多の自然公園指定にも加わり、観光協会の設立にも援助を惜しまない方針です。

ことしは、西進育成牧場の休い舎の申請、観光パンフレットの作成など計画しています。

◇美利河ダムの経過と今後の見通しは（美利河）

四十七年度に五百万円で詳細な地質調査が実施されます。地域のみなさんの福祉を第一に考え慎重にとり進めます。

◇工業誘致の計画は（種川、八束ほか）

過疎の歯止めとしてぜひ必要であり各方面に働きかけているが、経済が不安定なため思うにまかせない状態です。適切な時期をとらえて実現するよう努力を続けます。

◇米の生産調整に伴う予約米の事前割当てを適正にやってほしい（神立、豊田ほか）

基準反収、買入実績などを考慮して慎重に進めます。

◇牛の結核検診の場所をもっとふやして（美利河）

家畜保健所とも協議し、できるだけ検診場所をふやしていきます。

◇水質が悪く水量も少なくなっているので簡易水道を（花石）

四十七年度に設計予算を組み、四十八年度に設置する計画です。

◇国保税の見通しは（豊田）

医療費の改定や老人の無料化などにより医療給付費は二三%ほど伸びる見込みですが、国保税は一〇%程度に押えるよう努力します。

◇早く保健婦を配置して（種川、神丘）

長い間町民のみなさんに不自由をかけましたが、四月に二人の採用が決まりました。

◇農家の燃えないゴミの収集はできないか（神丘、八束）

収集車が部落を巡回することは困難です。大量のゴミは、北桧山町の青少年会館裏の捨て場に個々で運んでもらいたいと思います。

◇患者輸送車の大型化と週二回の運行を（中里）

四十八年度に大型化を計画していますが週二回の運行は困難です。

◇下金原橋の掛け替えを（金原）

四十七年度に地質調査をし、四十八年度に延長四十二mの永久橋を掛ける計画です。

◇緑町の営林署南側道路を新設できないか（今金）

新年度に用地買収をして、側溝新設、じゃり敷きなどをします。

◇桧山北高への通学の足は（田代ほか）

全日制は汽車、定時制はマイクロバスの利用になります。

◇中学校統合の見通しは（種川、八束、日進ほか）

地域のみなさんの了解を得て小規模校から統合するよう準備を進めています。

◇町道の補修をキメ細かく（豊田花石ほか）

雪解けを待っていたみのひどい町道にじゃりを敷きます。

◇除雪区間を延長して（鈴金ほか）

融雪期には、全町道の雪割りを実施します。また、来年度は除雪兼用のダンプ車が入るので、区間を十キロ程度ふやす計画です。

◇住吉神社付近の小公園を整備して（住吉）

花梅の植木など植えて、いごいの場になるよう進めます。

◇農業電話を早く設置して（美利河、花石）

戸数が足りないため農基は困難ですが、ほかの制度により考えます。公衆電話の設置も推進しています。

理学診療科を新設

充実される国保病院

総合病院に一歩前進

○……医療体制の充実を図るため、町では国保病院に『理学診療科』と『整形外科』を加え、病棟も増築することにしました。

○……これにより、郡部では珍しく待望のリハビリテーション（社会復帰訓練施設）が設けられます。

本町での脳卒中患者は、四十三年に三十三人、四十四年に四十六人、四十五年に五十八人と年々ふえており、これによる死亡者も毎年十人を越しています。

この患者の機能回復の療養は、発生後一週間以内が効果的とされています。しかし、北部桧山には訓練を受ける施設がないため、登別や札幌まで移動させなければならず、患者の体力回復を待っての三、四カ月後にするのでは回復可能な人まで不可能にしかねません。

さらに、ふえ続ける交通事故や農業機械による負傷など、早期訓練を逸したため不具廃疾者になるケースがますます考えられ、社会復帰訓練施設の必要に迫られています。

リハビリテーションとは『再び適したものにする』という意味ですが、単に手足の運動機能障害の治療、回復ということだけでなく、より広く障害者を人間全体としてとらえ、そのもてる心身両面の能力をできるかぎり十分に発揮させることが目標となっています。

このため、国保病院を五百六十四平方㍍（鉄筋コンクリート一階建て）増築し、機能回復訓練室、電気治療室、ハーバート室を備えて、ベッド数も現在の六十床から十八床ふやすことにしたものです。

設備は、ハーバートタンク、水中歩行浴、昇降練習用階段、マイクロ波治療器など約五百万円。

医師や看護婦も増員され『機能回復訓練』をはじめ『日常生活訓練』『言語療養』など幅広く診療されることになります。

工事費は、設計料、地質調査費も含め約三千七百七十六万円で、厚生省の認可を待っておそくとも秋までには工事にかかる計画です。

なお、棟続きでベッド数十一、二百七十二平方㍍の伝染病棟が一千七百八十万円で併設されることになっており、総合病院に一歩前進、町民の医療センターとして期待されます。

普通転作を奨励

米の生産調整対策

米生産調整対策協議会は、三月二日役場で開かれました。

協議会には、町長、農協組合長農業委員会長などが出席し、まず町長からことしの生産調整目標数量一千六百九十九㌧（平年作で約四百八十四ヘクタール分）が示されました。これについて協議した結果、政府買入限度数量が六千三十二㌧ということもあり、農家個別面積の上目標数量を定めて協力してもらうことになりました。

奨励補助金には、休耕奨励、寄託休耕、普通転作奨励、特別転作奨励などがあります。このうち、本町の十アール当たりの基準補助金は、休耕奨励が二万五千九百八円、普通転作奨励が三万九百八円となっています。

町では、農業経営に少しでもプラスになるよう、いも、ビート、ソバ、アスパラ、スイトコーンなどの普通転作をすすめています。

▽表彰おめでとう△

◇桧山管内民有林造林コンクールで小泉豊作さん（住吉）と管野鶴治さん（稲穂）が入賞し、森林国営保険事業功労者として森勝典さん（森林組合職員）が道知事から表彰されました。

◇学校教育、社会教育の推進に功績のあった新田竜一さん（今金小教員）藤倉満さん、山本博美さん（以上今金高教員）が、桧山管内教育実践表彰されました。

議会の知識 2

議員は常に〝住民の代表〟

国会は〝政党による政治〟をたてまえにしているため、多数議席を占める政党が内閣をつくって政権の座につき、その政党が与党となって内閣をささえるしくみになっています。

さて、地方議会の場合は、議員も長（知事、市町村長）もそれぞれ住民から直接選挙されるので、この限りでは国会の場合のように与党も野党も存在しないしくみになっています。

地方自治の場にこのような制度をとり入れたのは、長の選出について議会と無関係におくことによって、多数党による立法、行政双方の完全支配、ひとつの政治勢力の独裁化の防止、また長の地位を一定期間保障して地方行政の安定を図ることをねらいとしたもので、より民主的な政治行政が期待できると考えられたからであります。

ところで、一般にややもすると、地方議会にも国会のような与野党があるものと考えられますが、これはたいへんな間違いであって、議員にとっては長がなに党であろうとも敵でも味方でもなく、常に〝住民の代表〟として是々非々であるべきだといえます。

アルペンスキーコース係という競技役員で、一月三十一日から二月十四日までオリンピック札幌大会に参加しました。

私の仕事を簡単に説明しますと多くの選手が平等な条件ですべれるような固い雪の斜面を作り、試合時に斜面が荒れてきたら直し、さらに選手がポールを倒したときにもとの位置に戻すなど、コースを支障なく整備することです。したがって、仕事の大半はスコップ片手にスキーぐつで雪を踏みしめることでした。

その雪踏みの仕事を通し、見たり感じたりしたことをいくつか紹介します。

》仕事のこと《

昨年の十二月から自衛隊支援部隊が手稲山の現地に泊まり込みでコース作りをし、私たちの行ったころにはもう万全な整備がなされていたので、雪が降らないよう天に祈っていました。

降雪があると積もった雪全部をはぎとり、必要でない場所に投げます。自分の家の除雪と考えあわせてください。玄関から道路までもたいへんなのに、山全体の除雪をするのです。

まさに、陰の主役とは支援部隊と私たちの仲間ではなかったでしょうか。

雪踏みのみたオリンピック

中野武房さんの印象記



》選手の国民性《

試合が近づいて来ると選手がコースの下見と練習を兼ねて入ってきました。

概して外人は声が大きく陽気でやることが子どもっぽい感じがします。だが、同じ外国人でも、共産圏、アジアの選手は口数が少なく謙虚で物静かな人が多いようです。このことが競技の成績と合致しているのも奇遇です。

とくに、うるさいほど騒ぐのが米国人。日本の選手はゴンドラで乗り合わせても下を向いてうつむいているだけ。見ていてもかわいそうなくらいです。

》勝者への執念《

試合に勝つために練習は不可欠です。だが、試合当日や前日には体調を整えるとかなにかで練習量を少なくするのが普通です。ところが、さすがに強い国の選手は違っていました。私たちがコース整備に入って行くころには、もうすでに他の場所で練習をしています。私たちが朝六時半に宿舎を出るころには、選手も選手村を出ていくことになります。

また、男子の競技のときに競技場に女子の選手の顔が見えず、女子競技のときに男子の選手を見かけません。すなわち、自国の選手が出場しているのにもかかわらず自分の勝利のために寸暇を惜しんで練習しているのです。まさに、勝利者への執念といおうか……。

》サイン・バッチ《

三十五カ国の世界の若人が参加しアジアで初めて開かれた冬季オリンピック札幌大会は、熱狂と興奮のうちに無事終りました。

この大会に、本町からも競技役員として中野武房さん（今金高教員）笠原勝二さん（役場職員）、また、国際親善を目的とした国際スポーツ少年大会に福地邦夫さん（農業共済組合職員）今野むつ子さん（役場職員）が参加しました。

大成功の裏方さんとして活躍した中野武房さんの印象記を紹介します。（写真は、開会式場に向う競技役員の人たち）

国際色豊かなこの種の大会のつきものにサインとバッチの交換があります。

サインの求めに素直に応じてくれる選手は、アジア、共産圏の選手に多く、競技の強い国の選手ほどスター気取りで応じます。

アジアの選手のサインをもらっているのを残念ながら見ることができませんでした。同じ外国人なのに日本人は隣国を無視して白人に向くのは、なにか変な気持ちがしました。

また、バッチは品質、デザイン手のかかり具合からみて、日本のが最もりっぱです。バッチ交換の応じ方もそれぞれの国の性格が現われています。たとえば、米国人は交換というより与えているという感じでした。

》おう盛な食欲《

選手村での選手ひとり当たりの食費は一日三千円ですが、私たち役員の食費は一日当たり千円未満。みなさんの食費と比較していかがですか？

この食費というのは、純粋に朝昼、晩だけのことです。その他の間食などは自己負担なので、はたして一日に使う食料費がどれくらいになるか、私たちからは想像もつきません。

私たちの食堂は、グランド・ホテルでしたが、外人客がたくさんきました。その人たちの食べ具合をみても驚きます。私たちの二、三人分は楽に食べます。食べるからからだが大きいのか、からだが大きいから食べるのか、今後日本人としては大いに検討してみる必要があると思います。

住吉小から3児童入賞

全道文芸作品コンクール

道教育委員会主催の第三回全道児童生徒文芸作品コンクールで、住吉小学校三年の丸山裕子ちゃん（作文・わたしの家）が文部大臣奨励賞一年の向井勇作君（詩・ひやむぎ）が道教育長賞、三年の向井優子ちゃん（作文・のどの手じゅつ）が佳作にそれぞれ選ばれました。

桧山でこの三人だけ、しかも児童数十五人のへき地の学校からとあって喜びにあふれています。

文部大臣奨励賞に選ばれた丸山裕子ちゃんの作文『わたしの家』を紹介します。



『橋がなくてもいいぞうこがなくても住吉の家がすきです』
喜びの丸山裕子ちゃん。

わたしの家

住吉小三年　丸山裕子

わたしが一年生のときには、家に電気がありませんでした。だから、テレビも水道もけいこうとうもありません。れいぞうこはありましたが、それも電気がないのでただの物入れです。

テレビのかわりにラジオ、水道のかわりに川の水、けいこうとうのかわりにはランプを使っていました。

どうしてかは、わたしたちは大阪から住吉のはずれの方に移って来たので、電信ばしらが家までつづいていなかったのです。

ランプは二つありました。すいじ場にひとつと食事をするところにありました。でも、近所からもらったり、買ったりしているうちに二つ、四つとふえて家の中がだんだん明るくなってきました。

紅白歌合戦やテレビのおもしろい番組があると、となりの優子ちゃんの家まで行って見せてもらいました。テレビがおわると暗い道を電池をもって歩きました。

◇　◇　◇

家の前に川が流れているので、こがないと学校や町へは行けません。橋をかけても台風で流されます。三回ぐらい流されてしまいました。とび石も作ったけど、うまってしまいました。

春になって水が多くなると、お母ちゃんがむねまであるゴム長をはいて、裕子や華子をおぶってわたしてくれます。

川の水がにごった時はとてもこまりました。だって、いつもバケツを二つ持って川の水をすくって使っているんです。にごったらのめないし、食物の材料にもできません。でも、昨年お父ちゃんが外にポンプをつけてくれたので心配はなくなりました。

◇　◇　◇

家ぞくはおじちゃんが二人、子どもが二人、おばちゃんがひとりとお父ちゃんとお母ちゃんです。全部で七人でしたが、おととしの十月、大阪のおばあちゃんが来たので八人になりました。

おばあちゃんは、川はこげないのであまり出かけません。でも、おばあちゃんは『空気がええし、すずしいよってに住吉の方がええ』といいます。

はじめは車がないので小さい華子も駅までいっしょうけんめいに歩きましたが、おじちゃんたちが大阪からトラック二台と乗用車も二台かってきたので、町へ行くにも便利になりました。

◇　◇　◇

家ではみんなで〝しいたけ〟を作っています。ほだ木が一万本ぐらいあります。しいたけに水をやるときは、シャワーのような形のきかいですごいいきおいで水が出ます。水の出る所に手をあてると手にはりをいっぱいさしたような気がします。

ほだ木を川につけておくこともありますが、雨があまりふると全部流されてしまうこともあります。

できたしいたけは、はかりではかって小さいふくろに入れ、はこにつめます。この時は裕子たちもおばあちゃんも手伝います。

うりに行く時はもう夜です。お父ちゃんが車ではこだてに行き、帰ってくるのは夜明けになります。

◇　◇　◇

前には、犬もにわとりもひよこもいましたが、ひよこやにわとりは食べてしまい、犬は山の方ににげてしまったので、今はなにもかっていません。ぶたもいたけど死んでしまいました。

裕子が二年生になった時、お父ちゃんがはつでんきをつけてくれました。けいこうとうがつきました。テレビもうつりました。

大阪の家のようで裕子と華子はうれしくてうれしくてとびながらおどってあるきました。お母ちゃんやおばあちゃんが『よかったなあ』『明るいやねえ』と、よろこびました。

◇　◇　◇

家のうら山にくりの木が三本あります。

きょ年は、うさぎやいたちやねずみが木の下でまっていて、落ちるとねずみやいたちやもぐらがチョコチョコとすばやく食べるので少しよりひろえませんでしたが、お父ちゃんが『らい年はできる』といったから、ことしはたくさんみがなると思います。

だから、裕子ははしがなくてもれいぞうこがつかえなくても住吉の家がすきなのです。



今金高が閉校、統合へ

2,733人を送り出す

四月一日から北桧山高校と統合『道立桧山北高等学校』として新たなスタートをきるため閉校する『道立今金高等学校』では三月一日、最後の卒業式（写真）と閉校式が行なわれ、二十四年の歴史を終えました。

昭和二十三年十一月、町立今金高等学校定時制として開校、一時北桧山高校と合併しましたが、昭和二十七年、道立今金高校に独立し普通、農業、商業課程が設置されました。

その後、農産加工室、温室、理科教室、農業実習室、被服教室など着々と整備され普通科はもとより特色のある農業教育などで二千七百三十二人の卒業生を送り出し、郷土の発展や広い分野で活躍しています。

道南一を誇ったスキー部をはじめ、野球、陸上、柔道、バドミントンなど伝統ある体育部、音楽、新聞、絵画など着実な活動を続けた文化部と、クラブ活動も盛んでした。

しかし、長い間愛されてきた校舎も老朽化が進んで満足な学習環境とはいえず統合して近代的な校舎に生まれ変わることになったものです。

明るい郷土は〝人の和〟で

花石で家庭教育学級

明るい郷土づくりをみんなで考えようーと、花石部落で約三十人が参加し、二月四日生活改善センターを会場に家庭教育学級が開かれました。この学級は『教育と家庭』『子どもの世界とその指導』『家庭と子ども』などのテーマで開かれており、今年度六回目。

この日は、まず農協が『国鉄の合理化問題の現状』高木正行さんが『花石の農家経済』『田中義雄さんが『人の和による部落づくり』と、それぞれの立場で提言、これに対してみんなで話し合われました。



主婦も参加、家庭教育学級

身近かな問題だけに次のような活発な意見がかわされましたが、自分たちが住む郷土を少しでもよくしたいという熱気にあふれていました。

『花石の農業は〝百姓〟の域を出ていない。町や農協にたよるだけでなく、農事組合の強化や利用組合の結成など、自らプランを練って経営の向上を図るべきだ。』

『花石は小さい部落でありながら、昔から農業、商業、公務員、自由業などさまざまな職業の人が生活している。しかし、何か共通するものがあるはずだ。みんなで協力してできる花作り、きのこ栽培、余暇を利用した趣味などの話し合いの中から人の和を図り、明るい村づくりを見い出したい。』

『村づくりと人づくりは切り離せない問題だ。自然に恵まれた中でできる生活に自らほこりをもち花石を愛し、守るという気持ちで接すべきだ。しかし、子どもにあまえてはいけない。』

『広報いまかね』をよりみなさんと親しみのあるものにするため、読者の声を募集しています。広報について気づいた点、町の話題、写真など役場広報係まで気軽にどうぞ。



72年版〝町勢要覧いまかね〟発刊

町では、桧山北部の中心農業都市として躍進する本町の姿を広く紹介するため〝七十二年版町勢要覧いまかね〟（写真）を発刊しました。表紙の〝田代から望む今金市街地〟をはじめ四ページが美しいカラーで色どられるなど写真をたっぷり使い、統計図表や町の歴史も満載してA4判二十八ページ。

官公庁や市町村、町内の各施設などに配付されますが、一般町民にも実費（一部三百八十円）で頒付しますので、希望者は役場総務企画課に申し込んでください。

過疎化にどう対処

商工、農協両青年部が対話会

お互いが理解し合って今金の発展をーと、商工会青年部と農協青年部が二月十一日、公民館で初めての対話会を開きました。

この日集まったのは、商工会十人と農協五人の十五人でいずれも働き盛りの若ものたち。それぞれの立場で、当面する悩みや今金の未来像を約三時間にわたって熱っぽいなかにもなごやかなふんい気で話し合われました。

過疎化が進むなかでどのように対処したらよいかーを中心テーマに意見を交換。次のような貴重な意見が出されました。

両青年部では、今後も定期的に会合をもつよう計画しています。



若い熱気がいっぱい

『今金の農業は、やはり米を基本としなければ安定した経営は困難だ。しかし、減反による休耕奨励補助金、出かせぎなどで、逆に商店は金回りがよくなる皮肉な現象も出ている。今後は、少ない農家人口でより良質な米づくりを研究し、その余剰労働力を町内にとどめるよう、公害のない工場誘致を早急に実現したい。また〝今金男爵〟などの銘柄品をもっと開発すべきだ。』

『日進共同利用模範牧場は良質牛をふやすことに効果があると思うが、軌道に乗せるためにみんなの努力が必要だ。今金市街地付近の公園づくりとともに観光資源としても期待したい。』

『農協、商工会とも古い慣習を打破し、食品工場などのように新しいアイデアはどしどしとり上げていくべきだ。昨年、商工会青年部が企画した〝産業まつり〟は成功したと思うが、ことしから町を中心として各層の意見を結集、桧山の名物行事に育てたい。』

お知らせ



■農業学園生を募集

すぐれた農業後継者を一と、町ではことしも農業学園生を募集しています。

募集要領は次のとおりですが、詳しいことは役場農政課へお問い合わせください。

▷入学資格　農業に従事するおおむね18歳未満の中学校卒業生。
▷入園手続き　3月31日まで願書類（役場農政課にある）を添えて学園長に提出する。
▷修学年限　2カ年。
▷経費　授業料は無料ですが、合宿などの経費は実費負担。
▷手当　奨学手当（年額2,000円）と被服手当（年額1,000円）支給。

■上磯の電話に市内局番

3月24日午後2時から茂辺地局の電話がダイヤル式になり、上磯の市内電話に統一され、市内局番が〔01387〕になります。

これにより上磯局の電話番号は現在の電話番号に市内局番3が、茂辺地局は市内局番5がそれぞれつき、5ケタの電話番号に変わります。

3月24日から上磯、茂辺地方面への電話は、新電号を確かめておかけください。

（電報電話局）

■あなたも自衛官に

自衛隊では、ただいま二等陸・海・空士を募集しています。

▷資格　18歳から25歳未満の身体健全な男女。
▷待遇　衣、食、住支給のほか初任給3万円。ボーナス約4.8カ月分。
▷受付　自衛隊今金募集事務所へ

くらしのメモ



新入学児童を守ろう

こわい交通事故

皮肉なことですが新聞に交通事故の記事の載ってない日を見つけるのはたいへんなことです。

交通事故による犠牲者は年を追って悲しい記録を更新しています。もはや道路に安全交通はないものと思わなければなりません。

来月からいよいよ新入学児童の通学が始まります。かわいらしい一年生が交通事故でけがをしたり生命を失ったりすることは何としても防がなければなりません。

子どもを交通事故から守るにはどうすればよいか、いっしょに考えてみましょう。

まず、実地におかあさんがたがいっしょに歩いてみることです。信号のないところや横断歩道のないところはとくに注意して、繰り返し習慣化するまで教えます。

とくに低学年のお子さんですと忘れ物をとりに、道路のまん中からでも急に引き返す場合が一番危険です。

登校時よりも下校時に事故が多いのも解放感が気のゆるみを起こさせているようです。土曜日ともなると、あしたはお休みという気持ちから、つい横からくる車が目に入らなかったりします。

できれば、学校の行き帰りは上級生を交え、小さなグループをこしらえて行動できるようにしてやりたいものです。

グループで納付を
国民年金の保険料

国民年金の保険料は、毎月または三カ月まとめて納めることになっていますが、納めに行くことが煩わしいとか、仕事にまぎれてつい納め忘れるということもありがちです。

しかし、国民年金の給付をうけるためには、一定の期間保険料が納められているかどうかということが必要とされています。納め忘れはもちろん、納付が遅れても給付を受けることができなくなります。国民年金に加入している人たちの多くは『納めなければならないことは良く知っているが、つい忘れてしまって。集金にきてくれるとありがたいのだが…』という気持ちをもっているのではないかと思います。



こんなとき、隣近所がグループになって保険料を納める方法などを考えてみませんか。

国民年金制度では、制度に加入する届や、やめる届など、さらには拠出制老齢年金（十年年金）などの請求は、みなさん自身がしなければなりません。したがって、この手続きを怠っていると年金を受けられないことにもなります。

現在、農協や婦人会、部落会などが保険料のとりまとめを行なっています。この組織に加入するとか、身近かに加入する団体のないときは、ほかのかたといっしょになって新たに地区組織を設け利用するようおすすめします。

◇税の豆知識◇
固定資産税

毎年一月一日現在で土地や家屋などを所有している人にかかる税金が固定資産税です。

税率は、固定資産評価額に対して一・四%となっており、新築住宅には軽減措置がとられています。

住民の動態

前月に比べて

人口	11,103	(−15)
男	5,402	(−6)
女	5,701	(−9)
世帯	2,816	(−2)

（1月31日現在の住民基本台帳人口）

1月31日現在の

松村　仁（清　長男）美利河
庫元　綾乃（公夫　長女）栄　町
三津橋　修（信夫　長男）南　町
兼平　美幸（明人　長女）緑　町
杉山　元子（信義　長女）日出町
石川　信子（三郎　長女）寒　昇
佐藤　雅紀（正一　長男）八幡町

☒いつまでもおしあわせに

武藤　佳栄（竹明　五女）曙　町

☒たんじょうおめでとう

上田　富男＝鶴川　悦子　種　川
柏田　守＝太田越幸子　南　町
寺田　隆一＝伊藤　律　稲　穂
伊藤　敬一＝三浦　キヌ　金　原
小岩　英次＝篠崎キクエ　種　川
小岩　昌一＝畑沢　慶子　種　川
中里　幸則＝相沢　洋子　田　代

◆おくやみもうしあげます

遠藤　タヨ　七十九歳　大和町
高田　繁信　四十九歳　東　町
大和谷金太郎　八十八歳　本　町
大河内ヒロ　六十九歳　白　石
宮崎愛五郎　八十一歳　鈴　金

（一月分）



桧山で初めて監督者訓練講習会
楽しく働きやすい職場づくりをーと今金技能者協会では二月十五日から五日間公民館で開いた。江差職業訓練所の講師の話に熱心に耳を傾け、二十一人が修了証書を受けた。

＝広報＝トピックス



新入学児童の知能検査
四月の入学式を間近に控え、新入学児童を正しく導こうーと、今金小で二月二十一日行なわれた。子どもたちは、おかあさんがたの心配をよそに、もう一年生気取りで元気にはしゃぎ、テストでも一生懸命鉛筆を走らせていた。

発行・北海道今金町役場　編集・総務企画係　印刷・長門出版社　発行・47・3・17